

国際研究集会における研究発表

大学院博士前期課程・情報科学専攻 井上 陽子

私は、2010年8月25日から28日まで開催された The 3rd Asia Pacific Radiation Symposium (APRS) 2010 に参加し、研究発表を行いました。これは、奈良女子大学の組織的な大学院教育改革推進プログラム「理系の実践型女性科学者育成」からの資金補助を受けて実現しました。

今回参加した APRS2010 は、アジア太平洋地域の大気放射に関連する科学的研究を促進して、この領域の若手科学者を奨励することを目的として開催されました。韓国・ソウルの延世大学 (Yonsei University) が会場となり、アジアのみならず、アメリカからも多くの研究者が集まり研究発表や活発な議論を行いました。

私は25日から27日にかけて“Validation of visual range with microphysics and active remote sensing data at SKYNET sites”という題目でポスター発表を行いました。これは、大気の汚れ具合を見通しの距離で表す「視程」を、測器観測データとシミュレーションによって検証するという内容です。

今回が初めての海外渡航であり、また海外での研究発表も初めてでしたので、英語やハングル語での会話は非常に新鮮に感じられました。発表する前は、聴衆からの質問に的確に答えられるか不安でしたが、実際には思っていた以上に冷静に対応する事ができ、積極的に意見を交換することができました。

ポスター発表では聴衆の方とじっくりと議論を交わすことができるため、その場で図を描き、身振り手振りで説明しているうちに、意図が伝わり、納得して頂けたときはとても楽しく感じられました。拙い英語を辛抱強く聞いて下さった後で、「とてもおもしろい研究ですね」と言って頂いた時は、本当に嬉しく感じました。

このように英語でのポスター発表、質疑応答は、大変良い経験となりました。また、私自身の研究の発表だけでなく、聴講した発表は、どれも貴重なものばかりでした。

今回の経験から、研究内容についてだけでなく、コミュニケーションの大切さについても学ぶ事ができました。今回の学会で頂いた意見を今後の研究に活かしていこうと思います。